

小学校から大学までの教員らが参加した
大学部会セミナー



岡山県NIE推進協議会(会長・加賀勝岡山大学院教育学研究科教授)の大学部会セミナーが9月22日、岡山市北区柳町の山陽新聞社で開かれた。

「主体的な学びは新聞とともに」をテーマに、川崎医療福祉大(倉敷市松島)、中国短期大(岡山市北区庭瀬)、ノートルダム清心女子大(同伊福町)の計

3大学・短大の教員3人が、大学での取り組みや課題などを報告した。以下、要旨一。(NIE取材班)

主体的な学びは新聞とともに 「読む必要性」高めよう

ノートルダム清心女子大 伊木 洋准教授
(文学部)

私は中学・高校の国語科教師を目指す学生を対象に、日本語表現法を指導している。学生が社会に出る時は、学習指導要領の移行期にあたる。新学習指導要領に盛り込まれる「情報の扱い方」に関する指導は国語科にとって重要で、NIEが有効に機能する分野でもある。

記者助言生きた「実体験」

そこで本年度の講義で、大学入学者を希望する高校生に向けて日本語学を紹介する文集を学生に作らせ、NIEを活用する効果を実感してもらった。

文集を作る過程で、山陽新聞社の記者から新聞原稿や見出しの特徴を教わり、「客観的な目で原稿を見直す」「読む相手を常に意識する」という助言を受けた。



一連の講義は、NIEの手法を学ぶことが主目的ではない。

学生には「どうしたらより相手に読んでもらえるか」という意識が芽生え、文章の無駄を省いて短くしたり、写真やイラストで読みやすくしたりするなど工夫が見られるようになった。

記事活用した教材で成果

中国短期大 松井 圭三教授
(保育学科、専攻科介護福祉専攻)

新聞記事を通して社会福祉を幅広く学ぶことができるテキストを作った。2016年度の講義から活用し、成果を実感している。

これまで保育学科や専攻科などの講義で、社会福祉に関する記事や記事を専門用語を調べたり、意見交換をしたりするNIE「児童福祉」など15章立て。そのため、講義の全てで新聞を活用できるテキスト「社会福祉」を作った。来年は第3弾も出版する予定だ。今後も記事を使った社会福祉系の教材を作り、実践を進めたい。



「以前より新聞を読むようになった」との感想が寄せられた。

今年の記事や内容を刷新した第2弾「NIE児童家庭福祉演習」を作った。来年は第3弾も出版する予定だ。今後も記事を使った社会福祉系の教材を作り、実践を進めたい。

川崎医療福祉大 北澤 正志講師
(総合教育センター語学教育部門)

大学生を対象にした各種アンケートを見ると「宿題課題をきちんとする」「自分の意志で学ぶ」という答えが多い一方で、学習態度は1週間当たり講義も含めて16・7時間と少ない。「主体的に学んでいる」と思いながら、興味関心の幅が狭くなってきているのではないだろうか。

情報に触れて育つ主体性

主体性を育むことは、実際のところ難しい。「主体性があるから学ぶ」というより「さまざまな情報に触れて社会と自分のつながりを感じる中で主体性が育まれる」と考えている。

その意味で小論文の学習は大きく大きい。客観的な事実に基づき社会が抱える課題の解決策を論理的に検討していくといった作業をやらせたい。学生の情報源は、テレビやインターネットで、情報収集能力や論理的思考力が養われ、さらには主体的な学びが育まれていく。それは新聞による情報収集が欠かさない。



通じて、情報収集能力や論理的思考力が養われ、さらには主体的な学びが育まれていく。それは新聞による情報収集が欠かさない。

ところが高校までの「書く」指導において「情報収集から書く」という展開や指導はあまりなされない。学生の情報源は、テレビやインターネットで、情報収集能力や論理的思考力が養われ、さらには主体的な学びが育まれていく。それは新聞による情報収集が欠かさない。

楽しく続けられる活動を 岡山の新規実践指定校が情報交換会

岡山県NIE推進協議会は9月22日、本年度の新規実践指定校による情報交換会を岡山市北区柳町の山陽新聞社で開いた。県内小中学校、高校計5校が取り組みの現状を報告し、NIEアドバイザーらと交えて計18人が今後の活動方針について意見交換した。

吉備高原小(吉備中央町)の竹中一雄教諭は毎朝15分間、新聞を読む5年生の活動について発表。「競うようにしてその日の新聞を手にとって読む様子を見て、児童は今起きていることを新聞で読みたいと思っていると実感した」と話した。

早島中(早島町)の赤堀恵一教諭は2年生が受けた山陽新聞社の出前授業の効果について、「直後から複



新聞活用の現状と今後の方向性について話し合った新規実践指定校の情報交換会

数の生徒が自主学習で新聞記事の切り抜きをして感想を書いてきた。教員同士で新聞を話題にする機会も増えた」と手応えを語った。

石井小(岡山市)は校内放送で外国人講師が子どもしんぶん「さん太タイムズ」の英語のコーナーを読み上げていること、木之子中(井原市)は山陽新聞のコラム「一滴一滴」を漢字学習に使っていることを報告。玉野光南高(玉野市)は、図書委員が今夏のビッグニュースを選び、その記事を使ってエコバッグを作った文化祭で展示したことなどを話した。

NIEアドバイザーらは、子どもたちが楽しめる活動を長く続けることの大切さを強調した。「コラムの書き写しなど取り組みやすいことから始め、自分の意見を述べたり書いたりできるようにステップアップしていったほしい」という意見もあった。(黒崎平雄)

岡山県NIE推進協議会 大学部会セミナー

山陽新聞HPの「NIE」のサイトで過去の記事を読むことができます。
http://c.sanyonews.jp/n_d/nie/